

2017 (H29)

卯月



# 右馬允だま

卯月 15日の大西公園の桜祭りには向いませんでした。18日くらいから一気に吹きはじめ、今大鹿村は梅花桃、レンギョウ、岩つつじ、雪柳、など、とてもきれいです。足元ではツラネアオイ、一人静、ハイモズリ、エニレイソウ、ヤブムシ傘の芽吹きも、かほいらしい。昨日の朝は霜も降りましたが、ふとこの寒さは、行く所、このお祭り可憐らしい花を愛するのには、さわしい陽気となり、あちらこちらで鳴いてくぐるうぐいすの声と、楽しみ、年齢にふさわしいテンポで眺められるという、はなとともうまいものです。年々大鹿村を訪れるお客様も、早く来て来て、五月の連休を思いさせるような展開になって、ノビル、ヨモギ、セリ、などの若菜摘みに追われる主人や息子達。満開の桜を背景に、いい景色だねと見入っています。昨日の夜は竹の子(筍)の登り出した

次男の充が、とこのから、風邪をひいて来て、主人から母から、私に、ハイ園へ、まわり、この四月は、年寄り三人組の、総たおれとなりました。反子母の一番長引き、気の毒なようでした。外、ようやく、全員回復の兆し、見えて来て、ホッと、というところまで。風邪を恐い、おた、と改めて認識した春でした。加えて、三月末に、白内障の手術をした私は、元気で活動出来ることの有り難さを、ひしと感じられた1ヶ月となりました。若者が一緒にいてくれること、頼もしく働く姿を見せられること、小さな幸福でしょう。これ以上のものは、あるたうか、と思うのです。山奥の小さな村の、小さな<sup>振舎</sup>右馬允で、いかにうんと大事にしていきたいと思えました。若者たちの下支えに、全力を注ぎ、下働きに、徹しますと決意した日々がありました。

2月、3月と、ヨガの研修を、思う存分、積み重ねた。又、美と宗像代との新居で、新妻を、務めながら、右馬允を手伝います。生活が、かかっているので、彼女も、頑張っています。何事においても、一生懸命の姿勢を、忘れない、怠らない、家族でありたい、と思い、努力していきたいと思えます。